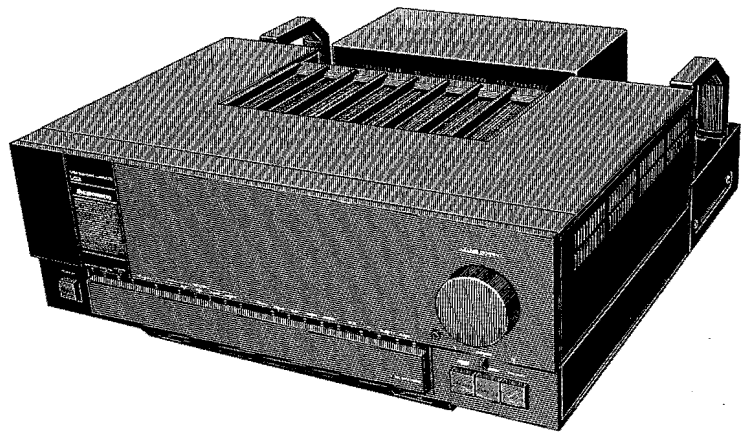


インテグレートッド アンプ

L-02A

取扱説明書



インテグレートッド アンプ

L-02A

お買いあげいただきましてありがとうございました。

本機は、トリオの技術陣が、最新の回路技術の結集と音楽性を巧みに結合させ、プリメインアンプの究極を目指し、単なる技術志向でなく、あくまでも基本性能を重視し、物理特性の追求と試聴のくりかえしという手法で完成させた、音楽性豊かな透明度の高い音質を得た、ハイスピードDC Σドライブアンプです。

ご使用にあたって、本機の性能を十分に発揮させるために、説明書を最後までお読みくださり、末永くご愛用くださるようお願いいたします。

アフターサービスについて

1. **保証書**—この商品の保証書は別途添付しております。必ず所定事項の記入および記載内容をご確認いただき大切に保存してください。

2. **保証期間**—お買上げの日より**1年間**です。
正常なご使用状態でこの期間内に万一故障を生じた場合には、保証書の記載内容によりお買上げの販売店またはトリオの営業所が**無料修理**いたします。

3. **保証期間経過後**の修理についてはお買上げの販売店またはトリオの営業所にご相談ください。修理によって機能が維持できる場合にはお客様のご要望により**有料修理**いたします。

4. 本機の補修用性能部品の最低保有期間は製造打切後**8年間**です。性能部品とはその製品の機能を維持するために必要な部品です。

5. なおアフターサービスについて、ご不明な点はお買上げの販売店またはトリオの営業所にご遠慮なくご相談ください。

※ ダンボール箱は、アフターサービスや引越しの際大切な機器を保護するために是非保管し、ご利用ください。

付属品について

本機には、下記の部品が付属されていますのでご確認ください。

- 6角スパナ……………1本
- 電源供給ケーブル(2m)……………1本
- 電源供給ケーブルコネクタ用止め金……………1個
- 止め金取付ビス……………2本
- 本体・電源部結合用ボルト……………3本
- ナイロンワッシャ……………3個

ご使用のまえに

設置についてのご注意

1. 本機の電源ユニット(L-02A-PS)は、強い磁力線を発生しますので、本体上には絶対に置かないでください。本体上に置きますと、音質に悪影響を与えます。
2. 直射日光の当る所、暖房器具など発熱物の近くには置かないでください。
3. 花びん、金魚ばちなど水の入ったものは、アンプの上に置かないでください。また、湿気の多い所はさけてください。アンプ内部に水が入りますと、故障や事故の原因になります。
4. 放熱をよくするため、ケース上面の放熱孔をレコード盤やテーブルクロスなどでふさがないようにください。また、壁面から10cmくらい離してください。

安全にお使いいただくために

1. 本機は、AC100V専用です。100Vの電源コンセントにプラグを差し込んでご使用ください。クーラー用などの単相200Vでは使えません。
2. ケースなどをはずし、内部にふれることはさけてください。内部に手などを入れると感電、故障の原因となることがあります。本体内部の変更や改造などはしないでください。
3. ケース上部の放熱孔や背面の外部用電源コンセントにヘアピン、縫い針などの金属物が入ると故障や感電の原因になります。とくにお子様へのご注意をお願いします。
4. 電源供給部の音響機器用外部コンセントは、SWITCHEDが2個で250W、UNSWITCHEDが1個で500Wの容量です。コンセントの容量より多い機器を接続しないでください。機器の消費電力を機器の表示や取扱説明書で確かめてください。
5. 電源コードを強くひっぱったり、むりに折りまげたり、継ぎ足したりすることは、通電しなくなったり、ショートや発火のおそれがありますのでご注意ください。

目次

ご使用のまえに……………	2
特長……………	3
接続のしかた……………	4
各部の名称と動作説明……………	6
操作のしかた……………	8
故障と思われる症状ですが……………	12
保守とご注意……………	13
ブロックダイアグラム……………	14
スピーカー接続ケーブルについて……………	15
定 格……………	16

特 長

ダイナミック・リニヤドライブ回路の採用

ローパワーアンプは小音量時、ハイパワーアンプは大音量時を得意としています。また低音の再生に関しても、一般に音量にかかわらずハイパワーアンプが有利とされています。そこで、ハイパワーアンプとローパワーアンプを組合せ、小音量時にはローパワーアンプを、大音量時はハイパワーアンプが働くようにして、両方のアンプの得意とする部分を合わせ持つようにしました。また、ローパワーアンプにも共通の大型電源トランスを使用していますので、小音量時のクオリティはさらに向上されています。

ミュート動作

ミュート動作中は、ボリュームに組み込みのインジケータが点滅表示します。

このミュートは、電源を入れたときまたは各種セレクターボタンを切替えたとき、自動的に2、3秒間動作してショックノイズを防止します。

例えば、TUNERからAUXに入力を切替えると、①ミュートリレーON②TUNERリレーOFF③AUXリレーON④ミュートリレーOFFの順にリレーが動作します。

低ひずみ、高性能リレーによる信号経路の切替え

16個のリレーを使用し、操作切替えを行うとき、必要最小限の接点数をロジックコントロールにより選択します。

切替え操作をリレーで行うと、デザイン面でのレイアウトによる制約を考慮することなく回路設計ができるため、実装配線が単純化され、信号経路も短く、ループも作らない理想的な設計が実現できました。その結果性能、音質ともに飛躍的に改善されています。

従来の概念を破ったダンピングファクター

アンプ出力部の不要なインピーダンスを徹底的に排除した結果、アンプの総合インピーダンスが極小となり、実に、ダンピングファクター10,000以上を確保することができました。従来のダンピングファクター値をはるかに越えた値を示し、音質的にも一段とダンピングのよい澄んだ音を再現します。

REC OFFボタン付のREC OUT SELECTORスイッチ

このスイッチは、入力セレクターに関係なくREC OUT(録音端子)への信号を選ぶことが可能です。また2台のデッキでダビングができます。REC OFFボタンを押込むとREC端子が信号回路から切り離され、たとえば非直線回路が接続されても信号には全く影響がない方法となっています。

重要事項

ご使用になる前に輸送用の固定ネジ2本(シルバー色)を、図のように、電源部に付属の六角レンチで取外してください。取外したネジは必ず保管して、次回輸送するとき必ず元どおりに取付けてください。

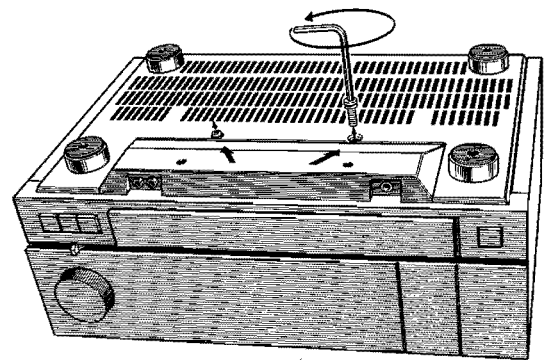


図1 輸送用固定ネジの取外し

AC電源の極性について

家庭用100VAC電源は片側が接地されています。この接地側(極性)と接続する音響機器の電源極性を合わせますと、ハムノイズや音質面で有利です。

本機では、AC電源コードの片側に白線の、また、ACアウトレットに(●)印の極性表示がそれぞれ施されています。この表示を目印にして本機、チューナーなどを次の手順で接続してください。

●接続手順:

1. 本機のACコードの白線をACコンセントの差込み口の小さい方に合わせて差込みます。入力設定をPHONOにしてハムノイズが小さくなるように本機のACプラグの差込みを反転します。または市販の検電ドライバーをACコンセントに差込み、点灯する側に本機ACコードの白線側を合わせて差込みます。
2. 本機に接続するチューナーなどのACコード(白線側)を背面のACアウトレット(●)印に合わせて差込みます。

接続のしかた

L-02 A(本体)とL-02 A-PS(電源部)の接続方法

●本体と電源部を接合する場合(図2)

1. 図のように本体と電源部を水平な台、テーブルなどの上に置きます。
2. 本体を図のように電源部側に移動し、本体と電源部のボルト穴を合わせます。このとき、コネクターも正しく接合していることを確認してください。
3. 付属のボルト3本をボルト穴に挿入し、付属の六角レンチで締め付けます。

注

本体と電源部を接続したり切離す場合は、必ずACプラグをコンセントから外しておいてください。

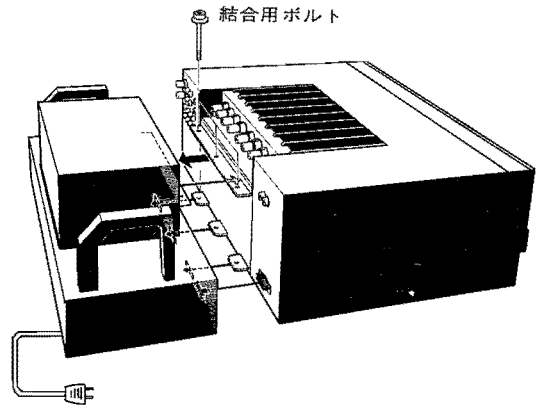


図2 本体と電源部の接合

●本体と電源部をケーブルで接続する場合(図3)

設置棚などの奥行寸法が十分でない場合は、本体と電源部を離してご使用ください。その場合、図のように付属の電源供給ケーブルで接続します。

1. 図のように付属のコネクターロック金具を本体の電源コネクターにネジで固定します。
2. 接続ケーブルのコネクターをそれぞれ本体、電源部に合わせて図のように接続します。コネクターが確実にロックされるまで十分に差込んでください。

注

接続したケーブルが張り切らないようたるみを持たせ、接触不良などの起因にならないようご注意ください。

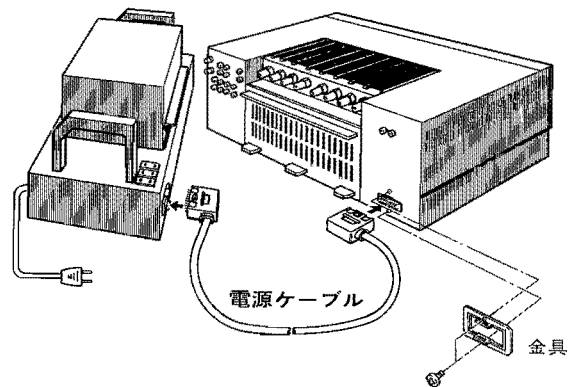


図3 電源ケーブルによる接続

Σドライブ用の接続(図4)

本機のスピーカー端子にはΣセンサー端子が設けられています。Σ接続を行いますと、スピーカーはΣドライブされます。接続手順は下記の要領で行ってください。

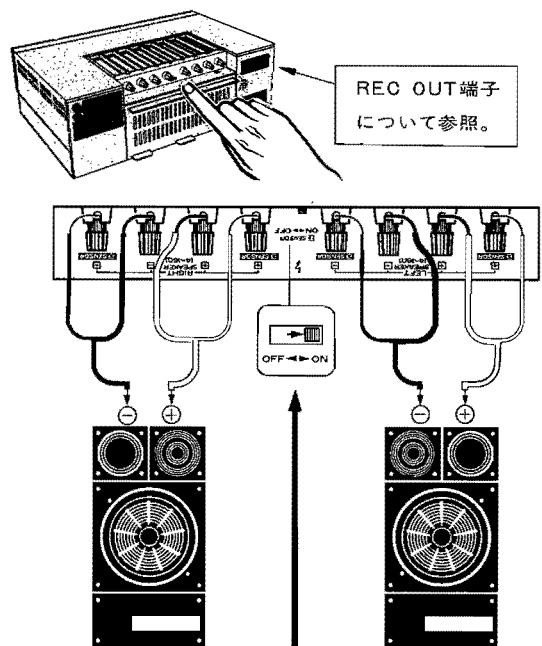
1. 本機RIGHT(右)側のΣ SENSOR(+)端子と通常の(+)端子にそれぞれ同色のスピーカーコードを接続します。
2. 上記スピーカーコードの反対側をより合わせ、ハンダ処理した後、右置きスピーカーの(+)端子に接続します。
3. 上記1, 2の要領で、別な色のスピーカーコード2本を使用して、アンプのΣ SENSOR(-)と通常の(-)端子をスピーカーの(-)端子に接続します。
4. LEFT(左)側スピーカー端子は、上記手順1~3の要領で左置きスピーカーに接続します。

なお、スピーカーコードの種類には色々なものがあります。詳しくは、15頁の「スピーカー接続ケーブルについて」をご参照ください。

PRE OUT端子について

この端子の出力は本機のメインアンプ部の出力を26dB減衰させたものです。定格入力時、ボリューム最大で2V/600Ωの出力が得られます。

チャンネルディバイダーなどを接続して、マルチウェイスピーカーシステムが構成できます。



図のような接続でスイッチがONの位置では、スピーカーはΣドライブされ、OFFでは通常のドライブとなります。

図4 スピーカーのΣ接続

レコードプレーヤーの接続 (図5)

本機のPHONO 1, PHONO 2端子には、MMまたはMC型いずれのカートリッジを使用したレコードプレーヤーでも接続できます。

プレーヤーの出力コードとPHONO端子のLEFT, RIGHTをよく確かめて接続してください。アース線は、GND端子に接続します。

チューナーの接続 (図6)

チューナーのOUTPUT端子と本機のTUNER端子を両ピンコードで、LEFT, RIGHTよく確かめて、同じチャンネルどうしをつなぎます。

予備入力端子 (AUX) の接続

2台目のチューナーを使つての比較試験、再生だけに用いるテープデッキ、テレビチューナー、ビデオテープレコーダーのオーディオ出力などが接続できます。

アース (GND) 端子の接続

プレーヤー、テープデッキなどを接続したときのアース用としてご使用ください。

テープデッキの接続 (図7)

A, B 2系統のテープ端子を備えています。1台のテープデッキに同時録音するときは、A, B両端子へ接続してください。

録音するとき: REC端子とテープデッキの録音入力端子 (LINE IN) を両ピンコードでLEFT, RIGHT正しく接続します。

再生するとき: PLAY端子とテープデッキの再生出力端子 (LINE OUT) を両ピンコードでLEFT, RIGHT正しく接続します。

外部用電源コンセント

SWITCHED (2個で容量250Wまで): チューナー、テープデッキ、プレーヤーなどの電源プラグを差込むことができます。それらの機器の電源スイッチをONにしておけば、本機の電源スイッチと連動しON-OFFしますので便利です。

UNSWITCHED (容量500W): 本機の電源スイッチと連動させる必要のないオーディオ機器の電源プラグを差込みます。500W以上の機器は絶対に接続しないでください。

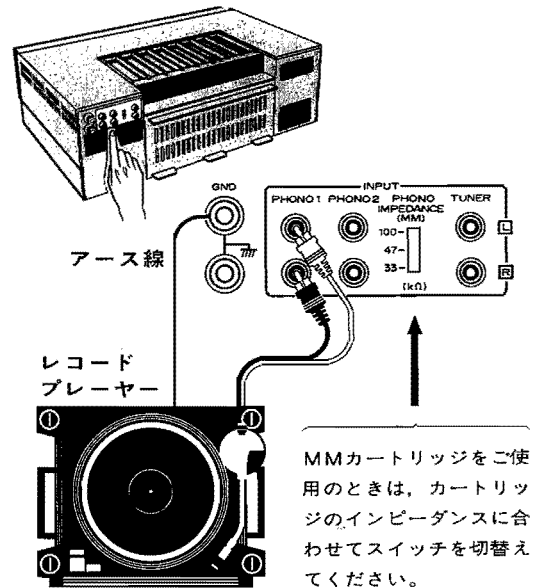


図5 レコードプレーヤーの接続

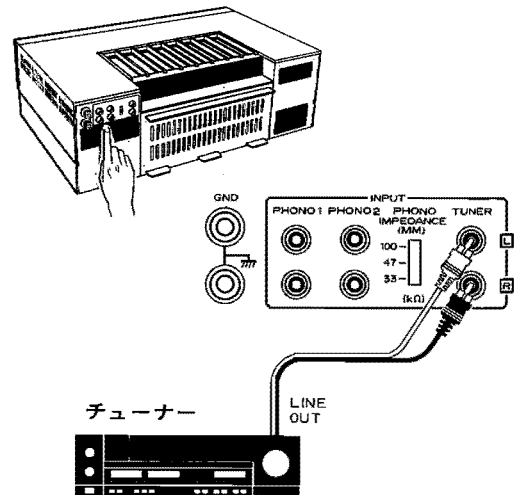


図6 チューナーの接続

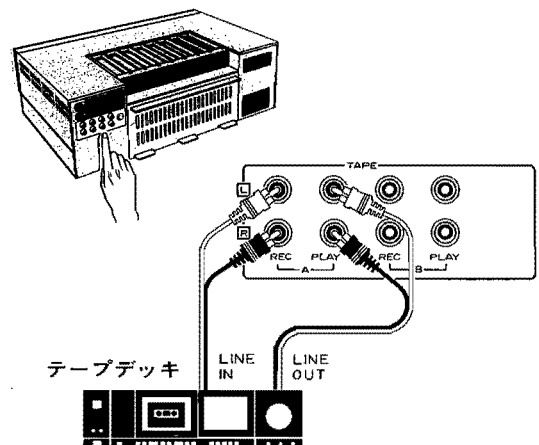
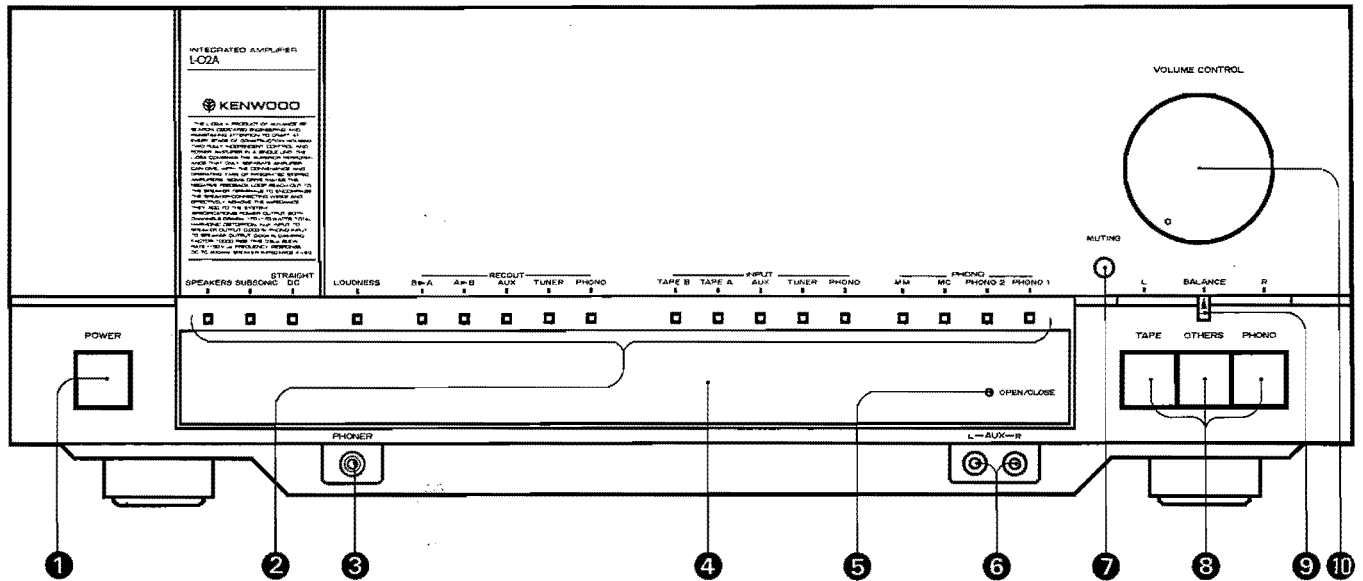


図7 テープデッキの接続

各部の名称と動作説明



① POWER スイッチ

スイッチを押して ON にすると電源が入り、もう一度押して OFF にすると電源が切れます。

② インジケーター

スイッチの切替え操作に伴ってインジケーターも切替わり、アンプの操作状態を表示します。

③ PHONES ジャック

ステレオヘッドホンできくとき、ヘッドホンのプラグを差込みます。ステレオヘッドホンだけでおききになるときは、SPEAKER OFF のスイッチを押込みます。

④ コントロールユニット

このユニットには、各種ファンクションスイッチやコントロールが収納されています。OPEN/CLOSE スwitch を押すと、モーター駆動でユニットが前後にスライドされます。この動作中、手の指か他のもので動作が妨げられると動作方向が逆になります。このユニットが前面に出たままで電源スイッチを切ると、自動的にユニットが引き込まれます。なお、ユニット内のスイッチやコントロールの説明は⑪～⑬をご覧ください。

注：_____

コントロールユニットが前面に出た状態で停電または電源プラグの接触不良などで電源が切れますと、このユニットはそのままの状態です。電源が復帰しますと、自動的に元に戻ります。

⑤ OPEN/CLOSE スイッチ

コントロールユニットを前後にスライド動作させるとき使用します。

⑥ AUX ジャック

固定接続の必要がない機器、たとえば、2 台目のチューナー、3 台目のテープデッキ、VTR のオーディオ出力などの再生に利用できます。

⑦ MUTING スイッチ

一時的に出力を切るとき使用します。使用中は VOLUME ツマミに組み込みの LED が点滅します。もう一度押しするとミュート解除します。また、LED が点灯に切替わります。使用状態で電源を切りますと、ミュート解除されます。

⑧ インプットセレクター

入力信号を 3 系統に区別し、PHONO, OTHERS, TAPE 系に切替えます。

TAPE: 押込むと、コントロールユニットで設定した TAPE A または B の再生および録音モニターができます。

OTHERS: 押込むと、コントロールユニットで設定した TUNER または AUX に接続した機器の再生ができます。

PHONO: 押込むと、コントロールユニットで設定した、PHONO 1 または PHONO 2 のレコードプレーヤーの再生ができます。

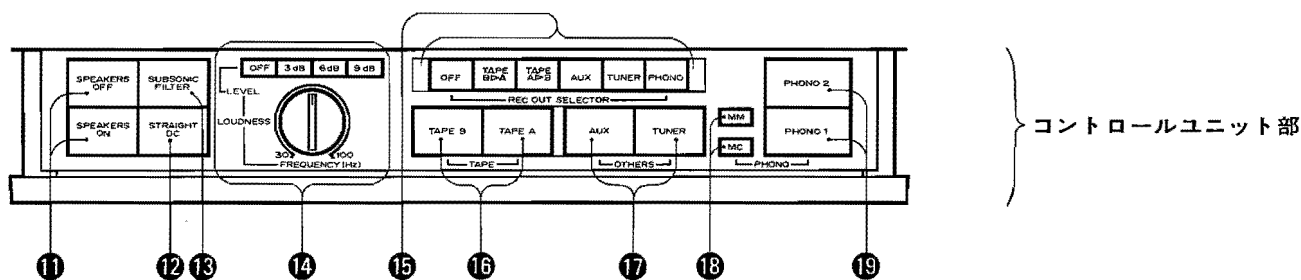
⑨ BALANCE コントロール

スピーカーシステムやステレオヘッドホンの左右の音量調節やお部屋の配置によるバランスを調節するとき使用します。バランスの調節で、左側の音が小さいときは、つまみを中央より左にスライドします。右側の音が小さいときは、つまみを中央より右にスライドします。

⑩ VOLUME コントロール

スピーカーやヘッドホンの音量を左右同時に加減します。左に回わし切った位置では音量がゼロで、右に回わすとしだいに大きくなります。

● 組み込みの LED は、電源を入れると最初点滅し、点灯に切替わります。また、MUTING スwitch を押すと点滅してミュート解除が働いていることを表示します。ミュート解除が働いていないときは点灯状態です。なお、各種セレクターボタンを切替えたときも 2、3 秒間ミュート解除状態となります。



⑪ SPEAKER(ON/OFF)スイッチ

スピーカーへの出力を切替えるスイッチです。
SPEAKER ON: スピーカーとヘッドホンが同時に使用できます。
SPEAKER OFF: スピーカーからは音がでなくなり、ヘッドホンだけ使用できます。

⑫ STRAIGHT DCスイッチ

スイッチを押込むと直流域まで再生可能となりますので、ソースに超低域の信号が含まれたものは余すことなく再生されます。そりのあるレコードまたはDC漏れの可能性のある機器をご使用になるときは、SUBSONICスイッチを押してください。

⑬ SUBSONICスイッチ

レコード盤のそりなどに起因する超低域雑音除去フィルターです。スイッチを押込むと18Hz以下の低音域をカットします。レコード演奏する場合、ピックアップがレコード面を上下するときスピーカーに悪影響を与える可聴範囲外の低域雑音を効果的にカットします。この理由から、常にスイッチを押込んでおいても結構です。

⑭ LOUDNESSコントロール

小音量でおききになる場合の低音聴感補正用、音量補正用およびスピーカー補正用のスイッチです。

低域の周波数(30Hz~100Hz)とレベル(VOLUME CONTROL -30dBの位置で3dB, 6dB, 9dB)をそれぞれコントロールできますので、スピーカーやリスニングルームに応じて、きめ細かなコントロールができます。

レベルの数字は、低音のききぐあいの度合いを表し、数字が大きくなるほど、低音が増強されます。なお、**OFF**スイッチを押込むと、完全に平坦な特性になります。

⑮ REC OUT SELECTORスイッチ

録音、ダビングのときに使用します。
REC OFF: このスイッチを押すと録音用REC端子に信号が出てきません。テープデッキとの接続がはずれたこととなり、外部の影響を受けずに放送受信やレコード演奏等のソース音を、そのままスピーカーから再生することができます。
PHONO: このスイッチを押すと⑬、⑭で設定したレコード出力が直接REC端子にでてきます。

TUNER: このスイッチを押すとチューナーの出力が直接REC端子にでてきます。

AUX: このスイッチを押すとAUX端子に接続した機器の出力が直接REC端子にでてきます。

なお、PHONO, TUNER, AUXの位置ではそれぞれの信号がインプットセレクタースイッチを通らず、直接REC端子にでてくるためインプットセレクタースイッチを切替える必要はありません。

A▷B: テープデッキAを再生してテープデッキBに録音するとき、このスイッチを押します。

B▷A: テープデッキBを再生してテープデッキAに録音するとき、このスイッチを押します。

⑯ TAPE A/Bスイッチ

TAPE A: TAPE A端子に接続したテープデッキの再生をするとき、および録音(3ヘッドテープデッキ)のモニターをするとき、このスイッチを押します。

TAPE B: TAPE B端子に接続したテープデッキの再生をするとき、および録音(3ヘッドテープデッキ)のモニターをするとき、このスイッチを押します。

⑰ OTHERSスイッチ

TUNER: TUNER端子に接続したチューナーで放送をきくとき、このスイッチを押します。

AUX: AUX端子に接続した機器でその再生音をきくとき、このスイッチを押します。

⑱ カートリッジ(MM/MC)切替スイッチ

ご使用になるレコードプレーヤーのカートリッジタイプに合わせてMMまたはMCのスイッチを押込みます。

なお、ご使用のカートリッジがMM型の場合は、カートリッジのインピーダンスに合わせて、背面のPHONO IMPEDANCEスイッチを切替えてください。

⑲ PHONO 1/PHONO 2切替スイッチ

PHONO 1: PHONO 1端子に接続したレコードプレーヤーでレコード演奏するとき、このスイッチを押します。

PHONO 2: PHONO 2端子に接続したレコードプレーヤーでレコード演奏するとき、このスイッチを押します。

操作のしかた

操作を始める前に

電源スイッチ、入力セレクタースイッチ、ボリュームコントロールなどの基本的操作に関する部分を除く他のスイッチ、コントロールなどは1度設定しておけば毎回使用する必要がありませんので、コントロールユニットに納め、操作の容易性を高めています。このため、操作を始める前にコントロールユニットを下記の手順に従って予め設定しておいてください。

設定手順 (図8)

1. VOLUMEコントロールを左側に絞り切って電源を入れます。
2. コントロールユニットのOPEN/CLOSEスイッチを押します。(コントロールユニットは前面にスライドアウトします。)
3. SPEAKER ONスイッチを押込みます。
4. 使用目的に合わせ、STRAIGHT DCまたはSUBSONICスイッチを押込みます。
5. LOUDNESSコントロールは、OFFのスイッチを押込みます。このセッティングは、使用目的に合わせて必要ときに調節してください。
6. REC OUT SELECTORはREC OFFのスイッチを押込みます。録音目的に合わせて必要ときスイッチを切替えてください。
7. 接続したテープデッキに合わせてTAPE AまたはBスイッチを押込みます。
8. TUNERスイッチを押込みます。
9. 接続したレコードプレーヤーに合わせてPHONO 1またはPHONO 2のスイッチを押込みます。
10. レコードプレーヤーのカートリッジの種類に合わせてMMまたはMCスイッチを押込みます。
11. コントロールユニットのOPEN/CLOSEスイッチを押して元の位置に戻しておきます。
12. この状態で下記の各操作を行ってください。

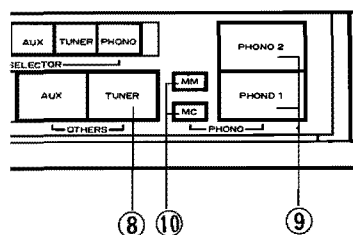
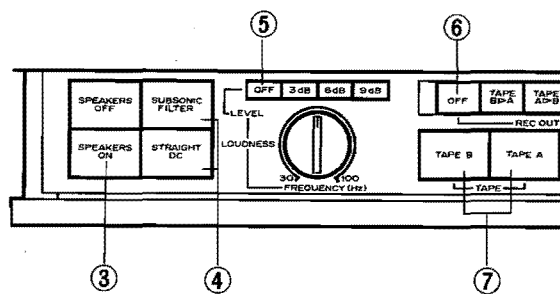
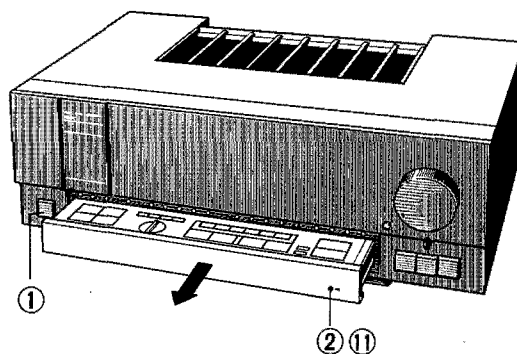


図8 コントロールユニットの初期設定

放送をきくとき

1. フロントパネルのOTHERSスイッチを押して入力設定をチューナーに合わせます。
2. ステレオチューナーを操作し、FMまたはAM放送を受信します。
3. VOLUMEコントロールでお好みの音量に調節します。

AUX端子を使用した再生(図9)

1. コントロールユニットのOPEN/CLOSEスイッチを押してコントロールユニットがスライドアウトしますと入力用AUXスイッチを押込みます。
2. フロントパネルのOTHERSスイッチを押して、AUXの入力を設定します。
3. AUX端子に接続した機器を操作します。
4. VOLUMEコントロールでお好みの音量に調節します。
5. OPEN/CLOSEスイッチを押してコントロールユニットを元の位置に戻します。

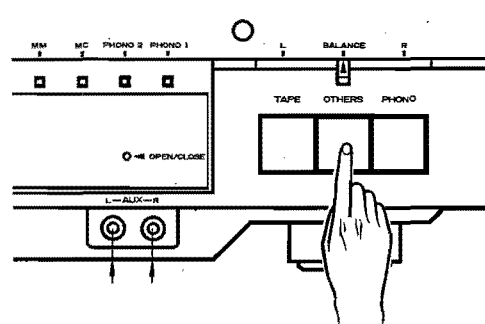


図9 AUX端子の使いかた

レコード演奏をきくとき(図10)

1. フロントパネルのPHONOスイッチを押込みます。
2. レコードプレーヤーを操作し、レコードを演奏します。
3. VOLUMEコントロールでお好みの音量に調節します。

注

1. スピーカー保護のためレコードをかけたときやカートリッジをとりかえるときは、MUTINGスイッチをONにしてください。(図11)
2. レコード演奏中は、プレーヤーに振動をあたえないでください。針とびなどでレコード盤にきずをつける原因になります。
3. ハウリング対策上、レコードプレーヤーはスピーカーシステムの近くに設置しないでください。もし、ハウリングを起こしたときは、スピーカーとプレーヤーの距離を離してください。また、スピーカーの下にはブロックのような固いものを敷き、プレーヤーの下にはインシュレーター、または厚いクッションを敷けば防止できます。
4. レコード演奏中に、パチッというショックノイズが出ることがありますが、これはアンプの不良ではありません。近くにある蛍光灯や洗濯機などのスイッチ動作により、妨害電波を発生していることがありますので、お調べください。

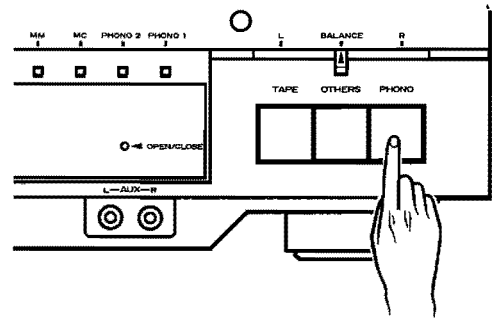


図10 レコードをきくとき

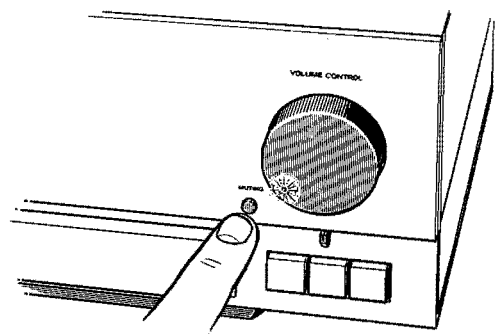


図11 ミューティング操作

テープデッキの使用

本機には、2系統のテープ端子があります。録音・再生プリアンプつきテープデッキを2台接続して録音・再生ができます。2台のテープデッキに同時録音できるだけでなく、テープからテープのダビングもできます。

再生のしかた

1. TAPEスイッチを押して入力をTAPEに設定します。
2. 録音済みのテープをテープデッキで再生します。
3. VOLUMEコントロールでお好みの音量に調節します。

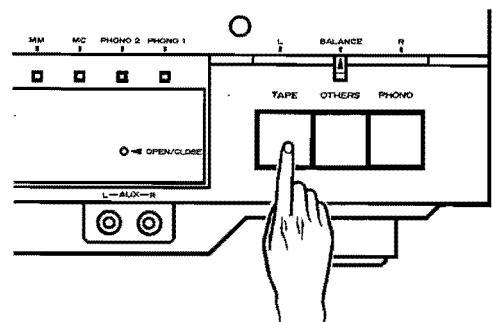
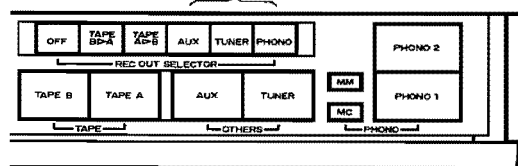
録音のしかた(図12)

●1台のテープデッキによる録音

1. OPEN/CLOSEスイッチを押してコントロールユニットをスライドアウトします。
2. REC OUT SELECTORスイッチのPHONO, TUNER, AUXスイッチのいずれかで録音ソースを設定します。
3. 設定した録音ソースの再生機器を操作し、テープデッキを録音操作します。
4. 録音レベルの調節は、テープデッキのレベルコントロールで行います。録音中は、本機のREC OUT SELECTORスイッチ以外の全てのスイッチ、コントロールを操作しても録音には影響ありません。
5. OPEN/CLOSEスイッチを押してコントロールユニットを元に戻しておきます。



録音ソースを設定します。



録音モニターをするとき。

図12 録音/モニターのしかた

●2台のテープデッキによる録音 (図13)

1. OPEN/CLOSEスイッチを押してコントロールユニットをスライドアウトします。
2. テープデッキをTAPE A, B端子にそれぞれ接続します。
3. コントロールユニット内のREC OUT SELECTORスイッチTUNER, PHONO 1/2, AUXのいずれかでソースを設定します。
4. 録音しようとするソースの機器を操作し、2台のテープデッキを録音の状態にします。
5. 録音レベルの調節は、それぞれのテープデッキのレベルコントロールで行ってください。
6. OPEN/CLOSEスイッチを押してコントロールユニットを元に戻しておきます。

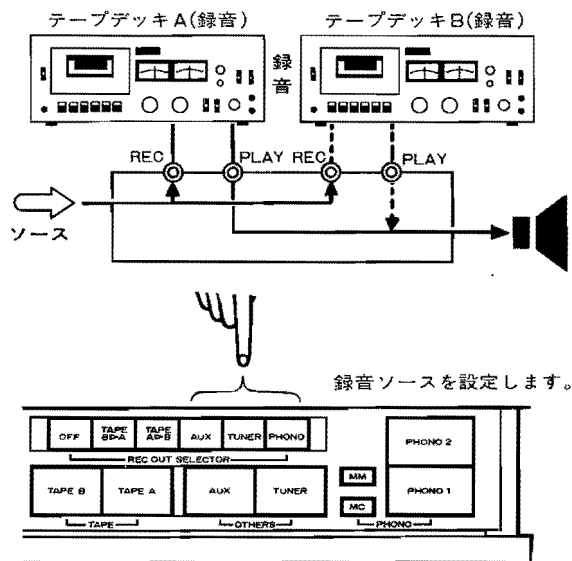


図13 テープデッキ2台同時録音

録音状態のチェック(録音モニター)

録音中の状態をチェックするモニターは、録音に使用されているテープデッキが3ヘッド方式(消去, 録音, 再生の各ヘッドが独立したもの)の場合、コントロールユニット内のTAPE A, またはTAPE Bスイッチを押すことにより録音状態のチェック(テープモニター)ができます。

スピーカーからはテープに録音されたばかりの音が再生され、モニター音として、録音の状態が確認できます。

注

録音モニターの場合は、録音用と再生用の接続が必要です。2ヘッド方式のテープデッキでは、録音モニターができません。

ダビングのしかた

2台のテープデッキを使用して、編集録音するテープダビングは、コントロールユニット内のREC OUT SELECTORスイッチ(A▷B, B▷A)を切替えますと、AからB, BからAへの相互ダビングができます。

スイッチを押し、コントロールユニットをスライドアウトして、下記の操作を行ってください。

●テープデッキAからBへのダビング (図14)

1. REC OUT SELECTORスイッチのA▷Bを押込みます。
2. テープデッキAを再生, テープデッキBを録音操作します。

●テープデッキBからAへのダビング (図15)

1. REC OUT SELECTORスイッチのB▷Aを押込みます。
2. テープデッキBを再生, テープデッキAを録音操作します。

注

録音側に3ヘッド方式のテープデッキを使用した場合、コントロールユニット内のソースセクターTAPE AまたはTAPE Bスイッチを押込み、インプットセクターTAPEスイッチを押込むとダビング状態のモニターができます。

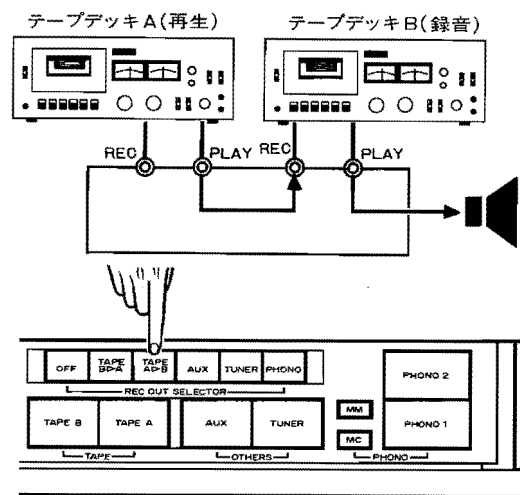


図14 AからBへのダビング

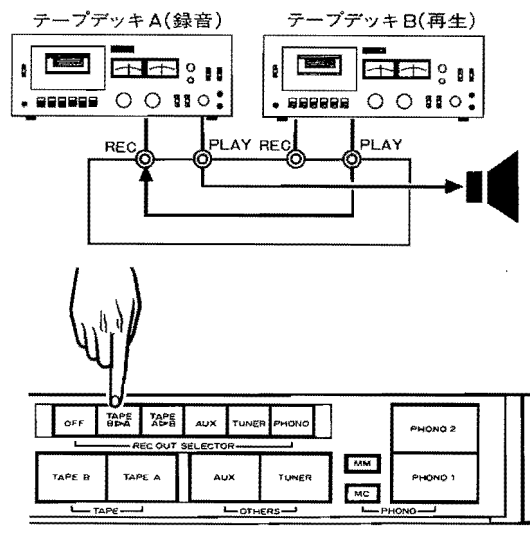


図15 BからAへのダビング

REC OUT SELECTORスイッチの使いかた

これらのスイッチは録音ソースを設定するためのものです。TAPE A、TAPE B端子のRECに出る信号を選びます。REC OFFスイッチを押込みますと、本機とテープデッキの接続が切離された状態となり、テープデッキのインピーダンス分による音質劣下がなくなりますので、録音を行わないときは、REC OFFスイッチを押込んでください。

また、PHONO、TUNERまたはAUXスイッチを押込むと、ソースセレクターの設定に関係なく、REC端子が直接それぞれの入力（PHONO 1またはPHONO 2、TUNER、AUX）に接続されるため、次のような使い方が可能です。

ダビング中に他のソースをきくには

1. コントロールユニット内のREC OUT SELECTORスイッチA▷BまたはB▷Aを押込みます。
2. おききになりたいソースに合わせて、ソースセレクターのTUNER、PHONO AUXスイッチを押込みます。ソース設定に合わせて、インプットセレクター OTHERSまたはPHONOのスイッチを押込みます。

●レコード演奏をききながらFM(AM)放送を録音する(図16)

1. テープデッキをTAPE AまたはB端子に接続します。
2. レコードプレーヤーをPHONO 1またはPHONO 2端子に接続します。
3. REC OUT SELECTORのTUNERスイッチを押して、チューナーを操作します。
4. 接続したテープデッキを操作し、FM(AM)放送を録音します。
5. ご使用カートリッジのタイプに合わせて、MMまたはMCスイッチを押込みます。
6. テープデッキの接続に合わせてTAPE AまたはTAPE Bスイッチを押込みます。
7. フロントパネルのPHONOスイッチを押込むと、レコード再生を、TAPEスイッチを押込むと、録音中のFM(AM)放送をそれぞれきくことができます。

●FM(AM)放送をききながらレコード演奏を録音する(図17)

1. テープデッキとレコードプレーヤーの接続は前項手順1、2と同じです。
2. REC OUT SELECTORのPHONOスイッチを押込み、レコードプレーヤーを操作します。
3. テープデッキを操作して、レコード演奏を録音します。
4. OTHERSのTUNERスイッチを押込みます。チューナーを操作して、任意の局を受信します。
5. テープデッキの接続に合わせて、TAPEのTAPE AまたはBスイッチを押込みます。
6. フロントパネルのOTHERSスイッチを押込むと、チューナーのソースを、TAPEスイッチを押込むと、録音中のレコード演奏をそれぞれきくことができます。

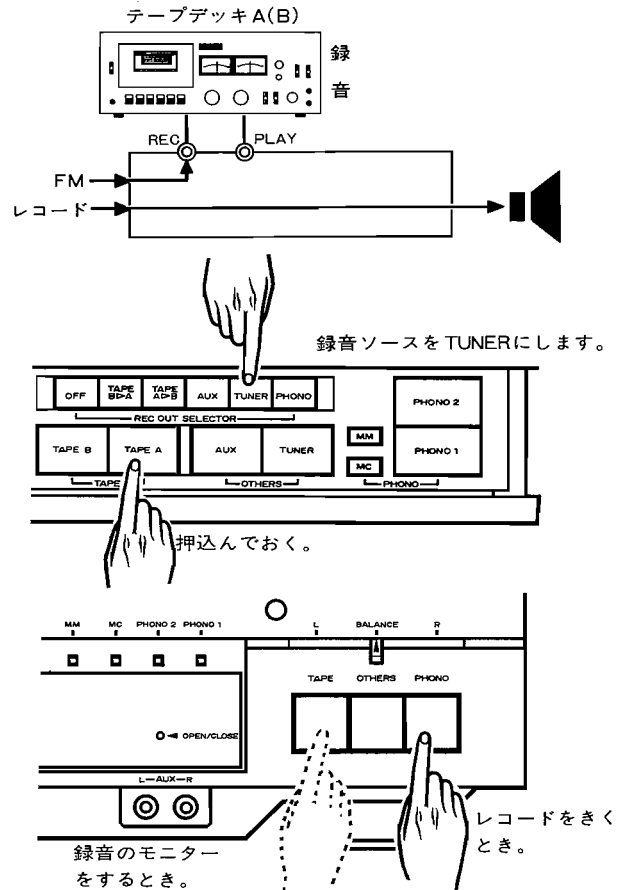


図16 FM(AM)録音中レコードをきくとき

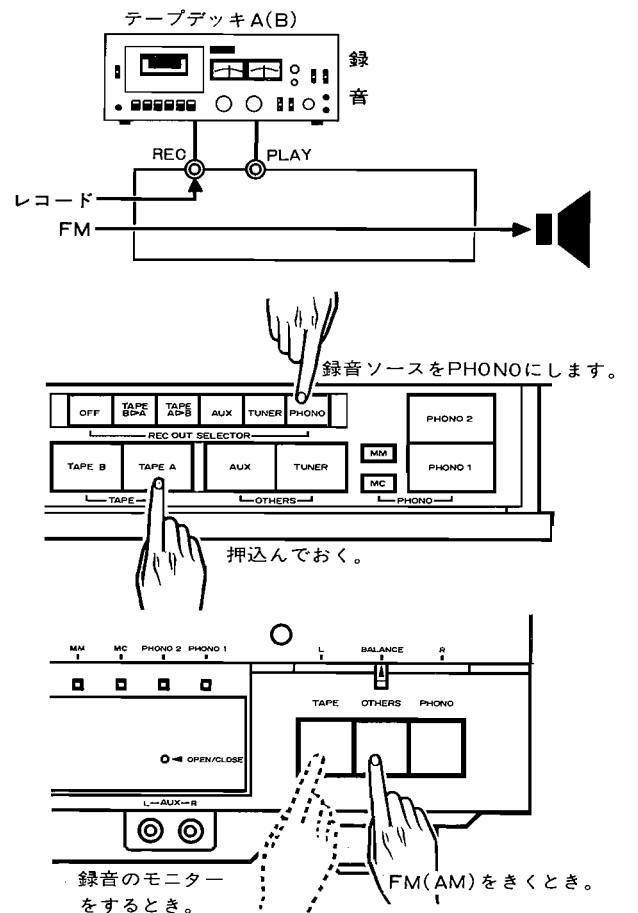


図17 レコード録音中FM(AM)をきくとき

故障と思われる症状ですが……

調子が悪いと故障と考えがちですが、サービスに依頼する前に症状に合わせ、一度チェックしてみてください。

AM-FM放送、レコードをきくときに起こる

症 状	原 因	処 置
電源スイッチを入れてもランプが点灯せず音も出ない。	電源部との差込み不完全。 ヒューズが切れている。 電源供給ケーブルの接続不良。 スピーカースイッチがOFFになっている。 スピーカークードがはずれている。	差込みプラグを完全にコンセントに入れる。 購入店、または最寄りのトリオ営業所へ連絡してください。 ケーブルの接続をチェックする。 ONに切替える。 アンプの出カコードとスピーカークードの端子の接続を点検してください。
左右とも音が出ない。	VOLUMEコントロールのLEDが点滅している。 音量ボリュームが左側いっぱいにしぼってある。 スピーカークードがはずれている。	MUTINGスイッチを押してください。 適当な音量までボリュームを右に回してください。 アンプの出カコードとスピーカークードの端子の接続をチェックしてください。
片側だけ音が出ない。	BALANCEツマミが片側いっぱいになっている。	BALANCEツマミを調節する。

レコードをきくときだけに起こる

症 状	原 因	処 置
ラジオ放送とレコード演奏のときに音量差がある。	チューナーの出力（電波の強さ）とレコードの出力が異なるため。	ボリュームを最適な音量に調節する。
左右とも音が出ない。また片側の音がでない。	プレーヤーの出カコードがはずれている。 プレーヤーの出カコードの差込み不完全。	プレーヤーの出カコードを完全にPHONO端子に差込む。 プレーヤーの出カコードを完全にPHONO端子に差込む。
ブーンという大きな音がでて聞こえない。	プレーヤーのアース線が接続されていない。	プレーヤーのアース線を背面のGND端子に接続する。
音楽とともにブーンというハム音が入る。	プレーヤーの出カコードが電源コードに接近している。	コードの位置を調節してハム音が最小の点に固定する。 AC電源コードの差込みを逆にしてみる。
音楽とともにピーツという音が入る。	テレビから発生する磁力線をプレーヤーの出カコードでひろうため。	プレーヤーの出カコードの配置を調節して最小点に固定する。
音を大きくしたり低音を出すとボワーンという大きな音がして聞こえなくなる。	ハウリングと呼ばれるもので、スピーカークードの振動がプレーヤーに伝わるために起こる。	プレーヤーとスピーカークードとの間を離す。 やわらかい床板はハウリングが起きやすいのでスピーカークードの置き場所を検討する。

保守とご注意

セットの手入れについて (図18)

本機の前面パネルなどが汚れたときは、シリコンクロスかやわらかい布でからぶきしてください。固い布やシンナー、アルコールなど揮発性のものでふきますと傷がついたり、文字が消えたりすることがありますから、ご使用にならないでください。

電源ヒューズについて

電源スイッチをONにして、電源が入らず本機が動作しない場合は、電源ヒューズが切れていることがあります。このようなときは、お買いあげ店または最寄りのトリオサービスセンター、営業所へご一報ください。

キャリングハンドルについて (図19)

本機の電源部にはキャリングハンドルが装備されています。このハンドルは、図のように、90度角以内で可変します。使用目的に合わせて調節ください。

セットの異常にお気づきのさいは

万一、セットの異常にお気づきのさいは、電源スイッチをすばやくOFFにするとともに、電源コードをコンセントから抜いてください。そのうえでなるべく速かに購入店または最寄りのトリオサービスセンター、営業所へご連絡ください。

サービス依頼について

本機の修理を依頼されるときは、裸のままお渡しにならず、必ず何かに包装してお渡しください。裸のまま修理にだされますと、途中の事故等で外観に傷がつく恐れがありますのでご注意ください。なお、梱包の前に必ず本体底板の固定ネジ2本を取付けてください。

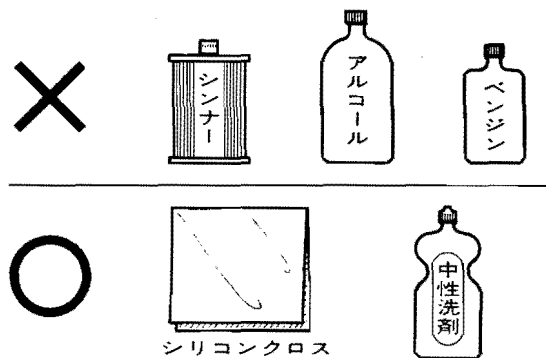


図18 手入れのしかた

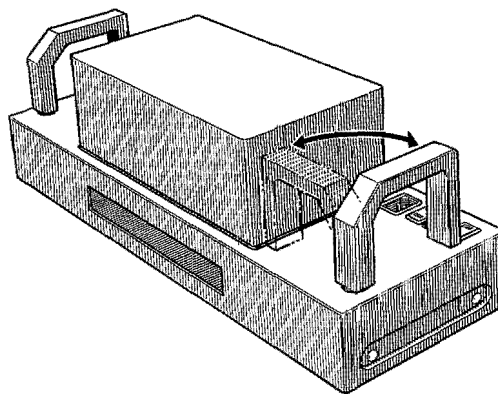
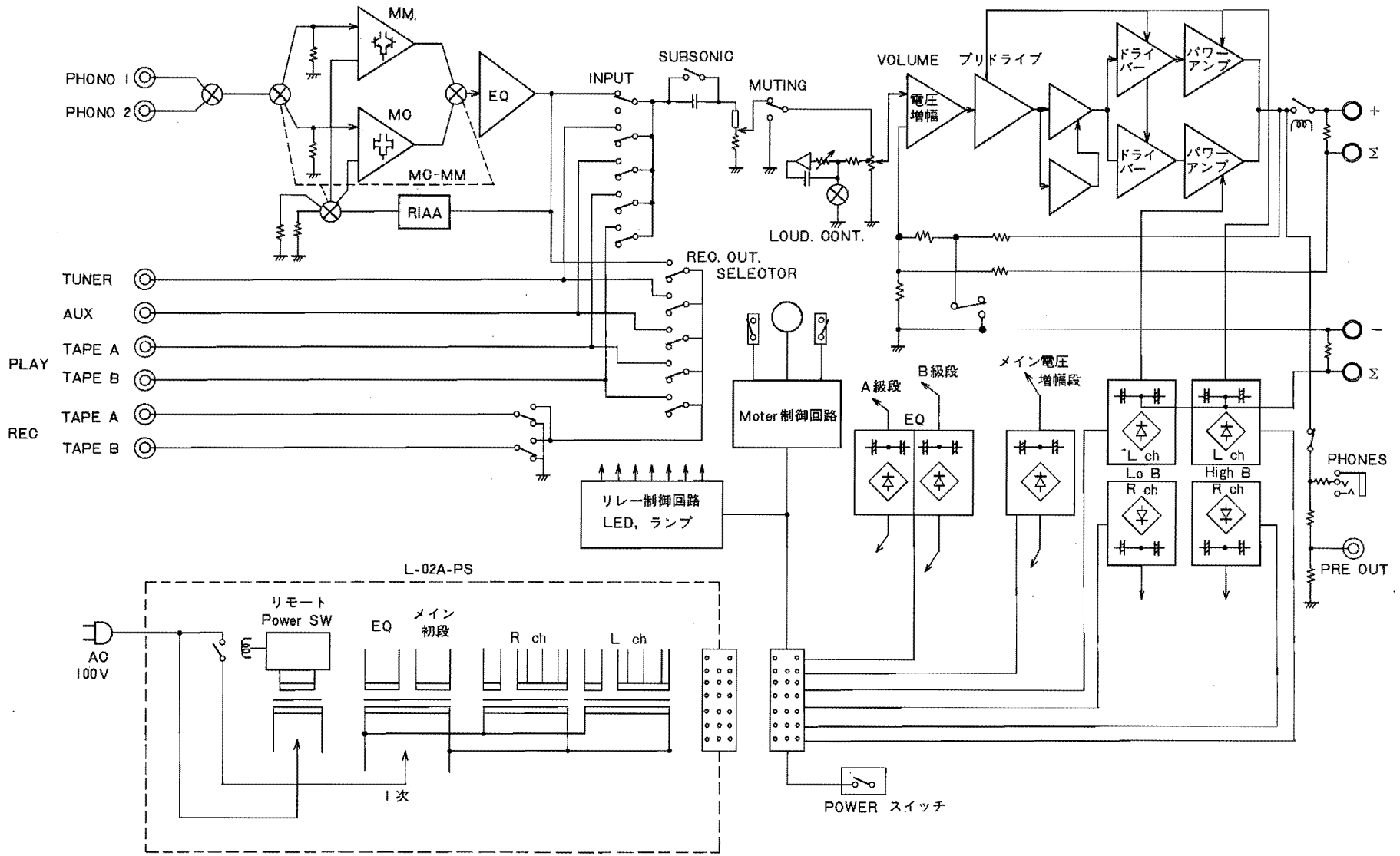


図19 キャリングハンドルについて

ブロックダイアグラム



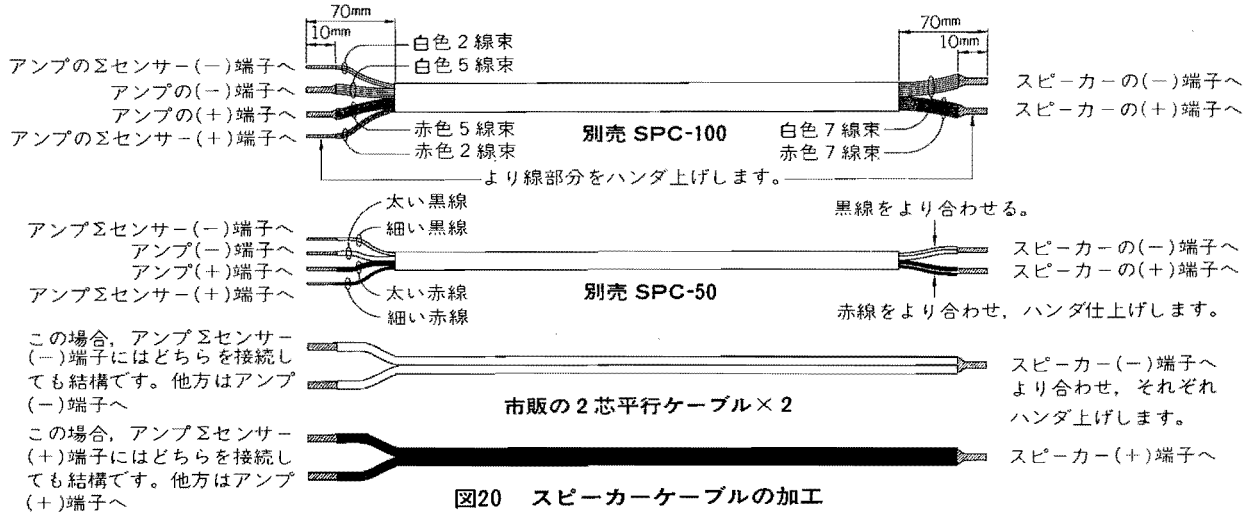
スピーカー接続ケーブルについて

本機には、Σドライブ用スピーカー端子が設けられています。Σドライブ用の接続をするには、つぎのスピーカーケーブルのうち適当なものを選び、ご使用ください。

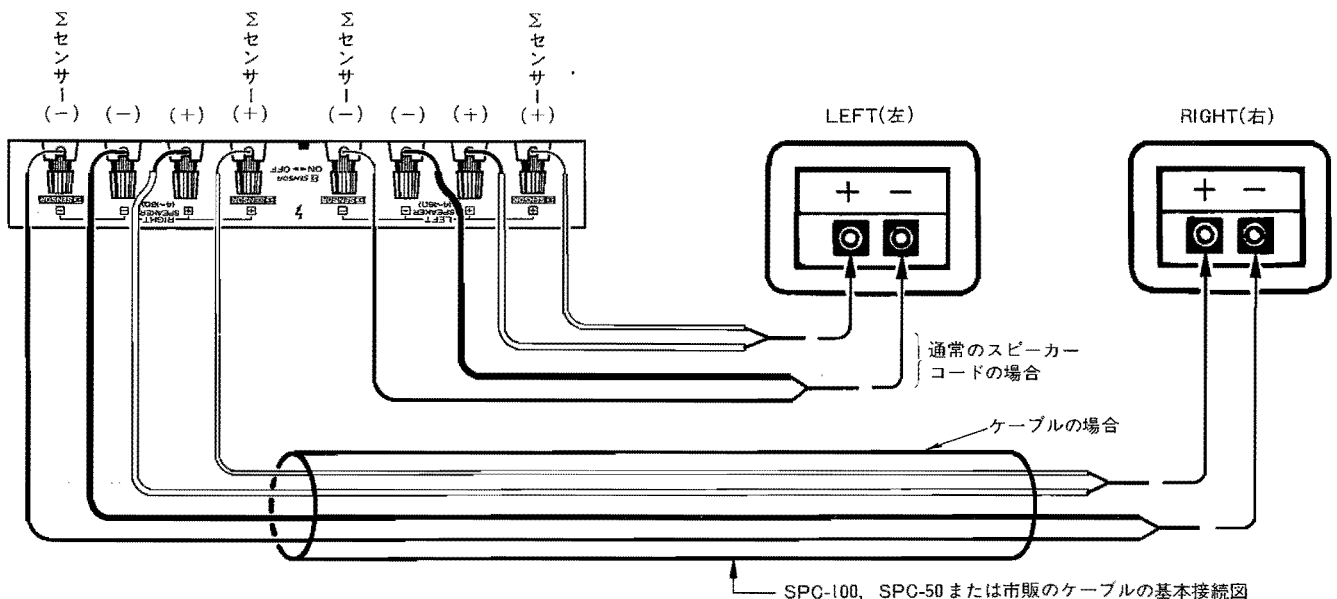
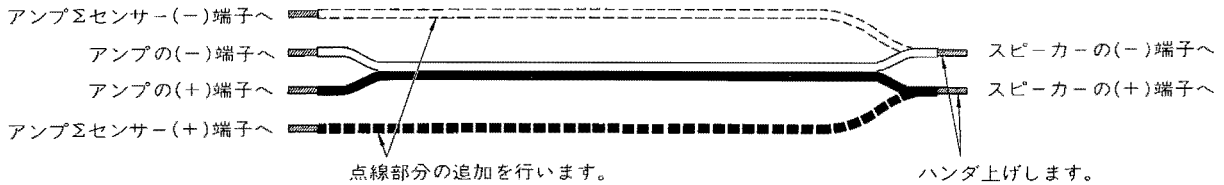
1. 別売のSPC-100はトリオの販売店でお求めいただけます。

2. SPC-50（4芯ケーブル）については、トリオの各営業所またはサービスセンターにご相談ください。

3. 市販の4芯ケーブルや2芯平行ケーブルもご使用できます。詳しくは販売店にご相談ください。



すでにスピーカーケーブルをお持ちになっている場合で本機のΣドライブ方式による接続をするときは、図21のような加工を行ってください。



定 格

これらの定格およびデザインは、技術開発に伴い、予告なく変更になることがあります。

〔総合特性〕

TUNER, TAPE→SP OUT(一部PHONO→SP OUT)

定格出力

両チャンネル動作(20Hz~20kHz, 8Ω).....170W+170W

全高調波ひずみ率

(定格出力時 20Hz~20kHz, 8Ω).....0.003%

($\frac{1}{2}$ W定格出力時 20Hz~20kHz, 8Ω).....0.003%

周波数特性(オーバーオール).....DC~400kHz, -3dB

混変調ひずみ率(定格出力時, 8Ω).....0.003%以下

ダンピングファクター(55Hz, 8Ω).....10,000以上

入力感度およびインピーダンス(定格出力時)

TUNER, AUX, TAPE PLAY.....150mV, 30kΩ

SN比(IHF A) TUNER, AUX, TAPE PLAY.....110dB以上

サブソニックフィルター.....18Hz, 6dB/oct

ラウドネスコントロール(VOL: -30dB)

.....+3dB 30Hz/100Hz

.....+6dB 30Hz/100Hz

.....+9dB 30Hz/100Hz

ライズタイム.....0.9μs

スルーレート.....±150V/μs

PHONO→SP OUT

全高調波ひずみ率

(定格出力時 20Hz~20kHz, 8Ω).....0.004%

入力感度およびインピーダンス(定格出力時)

PHONO(MM).....2.5mV 47kΩ

PHONO(MC).....0.1mV 100Ω

SN比(IHF A)

PHONO(MM).....91dB以上

PHONO(MC).....73dB以上

〔イコライザー部〕

PHONO→TAPE REC

PHONP最大許容入力

(MM, 1kHz).....350mV(ひずみ率0.0007%時)

(MC, 1kHz).....15mV(ひずみ率0.0007%時)

PHONO RIAA偏差(20Hz~20kHz).....±0.2dB

〔出力レベルおよび出力インピーダンス〕

TAPE REC(Pin).....150mV 180Ω

PRE OUT(出力170W時).....2V

〔電源部〕

電源電圧, 電源周波数.....AC100V, 50Hz/60Hz

定格消費電力(電気用品取締法に基づく表示).....420W

電源コンセント, 最大電力...電源スイッチ連動2個/250W

.....電源スイッチ非連動1個/500W

寸法.....幅480×高さ160×奥行163(mm)

重量.....17kg

〔本体〕

寸法.....幅480×高さ160×奥行327(mm)

重量.....17.5kg

ステレオ音のエチケット

楽しい音楽も、時と場所によっては気になるものです。隣り近所への配慮を十分いたしましょう。ステレオの音量は、あなたの心がけ次第で大きくも小さくもなります。

特に静かな夜間には、小さな音でも通りやすいものです。夜間の音楽鑑賞には、特に気を配りましょう。

窓を締めたり、ヘッドホンをご使用になるのも一つの方法です。お互いに心を配り、快よい生活環境を守りましょう。



KENWOOD

■アフターサービスのお問い合わせは、購入店または最寄りの当社サービスセンター、営業所をご利用ください。その他商品に関するお問い合わせは、お客様相談室をご利用ください。電話 (03) 477-5515

■トリオ株式会社/トリオ商事株式会社

本 社 東京都渋谷区渋谷2の17の5 シオノギ渋谷ビル 〒150

電話 (03) 477-5511

©1982・I PRINTED IN JAPAN

B50-4412-00(T)